

TATSUYA MIYANISHI'S MIRACLE WORLD EXHIBITION

宮西達也の世界 ミラクルワールド絵本展

6月28日(金)~9月1日(日)

午前9時30分~午後5時(入館は午後4時30分まで)

月曜休館 ※ただし7月15日(月・祝)開館、翌16日(火)休館・8月12日(月・休)開館、翌13日(火)休館

観覧料

■一般 1,200円(1,000円) ■大学生 1,000円(800円) ()内は前売および20名以上の団体

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳をご持参の方とその介護の方は無料

18歳以下
無料

宮西達也さん

絵本を子どもだけに描いてるわけではなく、「全ての人に読んでほしい」と思っています。

宮西達也さんってどんなひと？

1956年、静岡県生まれ。子どもの頃から絵を描くことが好きで、イラストレーターを目指していました。学生時代、絵本の色を全ページ塗らせてもらう機会があり、「絵本ってこんなにいっぱい絵が描けるんだ。将来絵本をやってみたいな」と思います。しかし、食べていくのは難しいと考え、デザイン事務所に就職。「絵を描きたい」という思いが募り、25歳の時、思い切って独立しますが、イラストの注文はほとんどありません。本屋さんで絵本を手にとった子どもたちの嬉しそうな笑顔や感動する姿に出会い、絵本に無限の可能性を感じ、ひと月かけて1冊の絵本を作りました。様々な出版社へ持ち込み、断られ続けますが、1年経ったあるとき「ヘンテコだけど面白いかもしれない」と編集者さんが認めてくれました。ようやく『あるひ おねえちゃん』(1983年 フレーベル館)でデビュー。しばらくアルバイト生活が続きましたが、物語を作って描いていく絵本づくりはこれまでのどんなことよりもワクワクしたそうです。

そして昨年、絵本作家デビュー40周年を迎え、作品は300冊を超えました。



『にゃーご』 1997年 鈴木出版 ©宮西達也

「みんなに楽しんでもらいたい!」という思いから、絵本創作のかたわら、絵本の原画展、映画の原作脚本執筆、国内外での講演会やサイン会など、絵本から広がる様々な活動も精力的に続けています。地元・静岡県三島市に開いたギャラリーではできる限り店番を務め、読者との交流を大切にしています。

「絵本は死ぬまで描いていきたい。最後は趣味の時間に自分のギャラリーで読み聞かせのおじさんをやりたい」と語っています。

本展でも、宮西さんの熱い思いをお届けしたいと、読み聞かせなど様々なイベントを開催予定です。宮西さんと一緒に、展覧会をより一層楽しんでいただきたいと思います。

「本当に大切なことは何なのか」宮西さんの絵本を読んでいると、世の中の変化や他の人の言葉に流されて忘れそうになっていることがあるのでは、とハツとすることがあります。多彩なストーリーと多くの個性豊かなキャラクターにふれて、みなさんもハツとする作品やお気に入りのキャラクターを探してみてください。

参考:『別冊太陽スペシャル 宮西達也の世界』別冊太陽編集部 編(平凡社 2019年8月25日発行)

(周南市美術博物館 学芸員 前山希望)



©宮西達也 ©円谷プロ

ポスター・チラシは展覧会のための書き下ろし。色々な作品のキャラクターが大集合!気になるキャラクターはいるかな?

←イベント情報は次のページへ

美術博物館ホームページはこちら



作品介绍

宮西さんは、自身の子どもの時代のことや大人になって自分が感じたことをヒントに絵本を作っています。『にゃーご』は、子どもの時、朝どこかに行って夕方帰ってくる飼い猫を見て、いつも「なにをしてるんだろう？」と思っていたことをヒントに描いたそうです。本展では、『にゃーご』の原画を展示します。



小学校の国語の教科書に掲載されているので、懐かしい!という方もいるかも?

ティラノサウルスシリーズは、20年続く人気シリーズです。各巻完結で恐竜たちの愛と友情が描かれています。20年間その時その時に宮西さんが感じたことを作品にし、「僕の人生です」とも語っています。本展では、『おまえ うまそうだな』を始めとするシリーズの作品原画に加え、最新作『おまえ うまそうだな さよならウマソウ』の原画も展示します。

『おまえ うまそうだな』 2003年 ポプラ社 ©宮西達也



『にゃーご』1997年 鈴木出版 ©宮西達也



『おさんぼトコちゃん トコトコ』 2007年 教育画劇 ©宮西達也

ほかにも様々な絵本の原画やアイデアスケッチ、ラフなども展示します。筆遣いや作品ごとの描き方の違いなどにもぜひご注目ください!

「絵本は読み聞かせることで完成します。絵本をつくったのは僕ですが、読む人の感性によって変わってきます」と語る宮西さん。ご本人による読み聞かせイベントも開催します! ご応募お待ちしております。

宮西さん来館イベント

※いずれのイベントも参加される場合は観覧券(すでに鑑賞された方は半券でも可)が必要です

■ 講演会 & サイン会

要事前申込

- I 6月29日(土) 13:30～ 定員/80名
- II 7月27日(土) 13:30～ 定員/60名
- III 7月28日(日) 10:30～ 定員/60名

※応募多数の場合は抽選となります

【申込み方法】

往復ハガキに①住所②氏名③電話番号④希望日時を明記して、美術博物館までお送りください

【締め切り】

- I 6月17日(月)必着
- II III 7月16日(火)必着

※サインは、**当日までに美術博物館でお買い上げいただいた対象商品**に限らせていただきます。当選ハガキ1枚につき1点まで。サイン会には、レシートが必要です。イベント当日まで保管してください。

※応募は各回につきお一人様ハガキ1枚まで。複数人でご参加の場合も、お一人様1枚ずつハガキでお申し込みください。

参加については、詳しくは当選ハガキにてご案内いたします

■ 読み聞かせ[約30分]

要事前申込

- a 6月29日(土) 10:30～ 定員/80名(先着順)
- b 7月27日(土) 10:30～ 定員/60名(先着順)

【申込み方法】美術博物館に電話でお申し込みください TEL 0834-22-8880
定員になり次第締め切らせていただきます

■ ギャラリートーク

申込不要

6月28日(金)9:30～の開会式終了後

■ ライブペインティング

申込不要

6月30日(日)10:30～ 定員/80名(先着順)

会場

- | | | | |
|--------|---|------------|----------------|
| I | a | ライブペインティング | 周南市文化会館 3階展示室 |
| II III | b | ギャラリートーク | 周南市文化会館 地下展示室 |
| | | ギャラリートーク | 周南市美術博物館 企画展示室 |

LAWSON

ローソンのソフトクリーム

— 205円(税込) —

LAWSON 徳山動物園前店 0834-32-8363

※画像はイメージです。

美博クイズ〜!〈125〉 もんだい

宮西達也さんは、手描きで絵を描くとき何を使って色を塗っているだろう?

*パソコンを使うこともあるよ。

周南市美術博物館
常設展示

- 常設展観覧料：一般200円(160円) 大学生等100円(80円) ()内は20名以上の団体
 ※18歳以下および70歳以上無料 ※「宮西達世の世界 ミラクルワールド絵本展」の観覧券で常設展も無料
 ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳等をご持参の方とその介護の方は無料
- 休館日：月曜日

展示室 3 コレクション展示室

コレクション展“The color” 6/16(日)まで開催中!

人気作品
アンケート
開催



松田正平「眠る人」

本展では展示室の4つの壁面を、カラフル、モノトーン、シック、ポップに分けて作品を展示しています。観覧者アンケートの中で特に人気があったのがポップな色使いの作品です。河村純一郎の「住めば都」や松田正平の「眠る人」などが好きな作品に選ばれました。またシックな作品では澤野文臣の「山里」、カラフルな作品では尾崎正章の「けし」や「ベニス風景」が人気でした。色の世界をぜひ楽しんでみてください。



河村純一郎「住めば都」

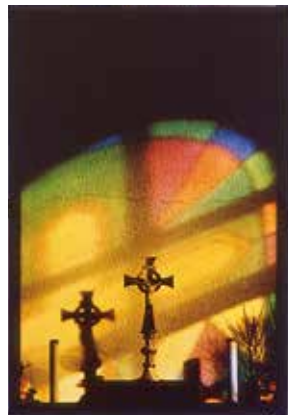
◆特別展示(～4/29)に代わり、5/1からは「モノトーン」の作品を展示しています。

展示室 4 林忠彦記念室

旅路のいろどり ～7/31(水)

林忠彦は、明るさと荒々しさを持つ風土と人々、キリシタンたちの強い生きざまやエキゾチックな風景など、長崎に「たまらない魅力」を感じていました。「長崎 海と十字架」では新しい長崎写真を目ざして一気に撮り下ろしました。さらに、人物写真の一つの極致として、人物を登場させない風景の中に、人びとの生きざまを表現することに挑戦しています。

「祭壇」では、スタンドグラスから差しす日の光が祭壇を照らし、壁に映るやわらかな色の中に、十字架のはっきりとした影が映し出されています。林忠彦が「スポットライトを浴びた十字架。十字架のある風景は写真的だと思った」と記したこの写真は、浦上教会(浦上天主堂)で撮影されました。風景の中に長崎の人びとの生きざまが感じられる一枚ではないでしょうか。



祭壇<浦上天主堂>
(「長崎 海と十字架」)

展示室 5 まど・みちおコーナー

今回の内容の展示は6/30(日)まで

作品は、遠くから眺めると、近づいてみるとでは印象が変わってきます。特にこの作品は近づいて見てみると、ボールペンで無造作に多数の線が描かれているのがわかります。離れてみるとそれが模様に見えてきます。私はこの作品から大理石のマーブル模様を連想しますが、みなさんはいかがでしょう。

(タイトルなし) 制作年不詳
水彩、万年筆、ボールペン、色鉛筆・紙



徳山の歴史 特設コーナー

没後140年
徳山藩九代藩主 毛利元蕃
6/1(土)～9/16(月・祝)

徳山藩九代藩主の毛利元蕃。今年は没後140年にあたります。幕末から維新にかけての激動の時代に藩主をつとめた元蕃にスポットをあてて、資料とともにその時代を紹介します。



周南市美術博物館 その他の6月の展覧会

9:30～17:00(入館は16:30まで)

観覧無料

- 菊川陶芸30年のあゆみ展 創造 その先へ 6/15(土)～16(日)(最終日は15:00終了)【展示室1】

美博クイズ～!<125> こたえ

水彩絵の具や

クーピーペンを使っているよ。

身近な画材だね!

Sign <屋内外広告看板>

一般美術看板・電照看板・広告塔・ディスプレイ

ヒロナカ工芸

〒745-0845 山口県周南市河東町4-15 TEL (0834) 32-0818 FAX (0834) 21-7484

ART and HISTORY インフォメーション

周南

周南市美術博物館 ☎0834-22-8880

宮西達也の世界 ミラクルワールド絵本展
6/28(金)~9/1(日)

コレクション展“The color” ~6/16(日)

菊川陶芸30年のあゆみ展
創造 その先へ 6/15(土)~16(日)

周南市郷土美術資料館 ☎0834-62-3119

空調工事等のため、
2025年1月10日まで休館

防府

毛利博物館 ☎0835-22-0001

『源氏物語』の時代—摂関政治と大江一族— ~6/2(日)

山口

山口県立美術館 ☎083-925-7788

奈良大和路のみほとけ
—令和古寺巡礼— ~6/9(日)

線こそ命—松田正平の素描と水彩 ~6/16(日)

レディ、レディ、レディ!
—写真家が見つめた昭和の女性 ~6/16(日)

萩

山口県立萩美術館・浦上記念館 ☎0838-24-2400

古伊万里のモダン 華麗なるうつわの世界 ~6/23(日)

萩博物館 ☎0838-25-6447

『萩まちじゅう博物館』20周年記念企画展
再発見 萩の「まち」 ~6/16(日)

長門

長門市総合文化財センター(ヒストリアながと)

☎0837-22-3703

幕末長門の歴史秘話
~160年前、黄波戸浦にも黒船がやって来た!~
6/5(水)~8/25(日)

下関

下関市立美術館 ☎083-245-4131

下関市立美術館・下関市立歴史博物館共同企画展
『菊舎 旅と友を愛したひと—旅編—』
6/7(金)~7/15(月・祝)

下関市立歴史博物館 ☎083-241-1080

下関市立美術館・下関市立歴史博物館共同企画展
『菊舎 旅と友を愛したひと—ふるさと編—』
6/7(金)~7/21(日)

~ TOSOH PARK 永源山の中にある美術館 ~

周南市郷土美術資料館・尾崎正章記念館

※空調工事等のため、2025年1月10日まで休館



当館はふるさと周南市の画家、尾崎正章の作品を中心に、地元の作家の作品を紹介する施設として、1995年に開館しました。空調工事等のためしばらく休館となりご迷惑をおかけします。この機会に尾崎正章の歩んだ足跡を当コーナーで紹介したいと思います。

尾崎正章の作品

3. 「風景をテーマに」

尾崎正章はどのような作品を描いていたのでしょうか。作品の変遷をたどります。

尾崎は初期(戦後~1965年頃)は主に静物画や女性像を描いていましたが、1960(昭和35)年前後には秋吉台の雄大な自然と向き合い、連作に取り組みます。萌え出ずる新緑の春、緑まぶしい夏、草原が赤や黄金色に色づく草紅葉の秋、雪景色の広がる冬。大地にキャンバスを立て、風に吹かれながら秋吉台の四季を描きました。「荒涼とした秋吉台には言葉では表現出来ない魅力がありましたね」*とのちに彼は語っています。



「静物」1953年 油彩・キャンバス



「秋吉台(春)」1960年 油彩・キャンバス



「秋吉台」1960年 油彩・キャンバス



「秋吉台(雪)」1960年 油彩・キャンバス

*対談「この道しかない、この道を歩く」より『尾崎正章展』図録(発行 新南陽市)
参考:『周南市制50周年記念 尾崎正章展』図録(発行 周南市美術博物館)

最新の情報は、当館ホームページでご確認ください。 <http://s-bunka.jp/kyoubi/>



『きみを嫌いな奴はクスだよ』に収録されている雨にまつわる短歌です。

31音の中に「雨」という単語は出てきませんが、「もうずっと泣いている空」と表現するところがロマンチックで素敵ですよ。

木下さんはその人の意を汲んだオナーメイトの短歌を作り出す、あなたのための短歌という活動で一躍有名になりました。その後、テレビ番組情熱大陸に特集されたり、詩人谷川俊太郎さんと共著で作品集を出版したりと大活躍されています。

さて、先の短歌にも「花」という言葉が用いられているように、雨と花とは切っても切れない縁を感じますが、キリスト教では6月をイエスのみ心の月としてお祝いし、中でも第2日曜日を「花の日」として持ち寄った花を囲んで礼拝を行うそうです。

そんな6月の1日には、創立70周年を迎えた劇団四季の『ジーザス・クライスト・11号 superstar』の一般発売が開始となります。

劇団四季の一般発売が行われた舞台で当館での開催は、なんと7年ぶりとなります。

雨は降るかもしれませんが、心躍る舞台のチケットを手に入れてみませんか。

(舩本)

ミニコラム ガス燈

「もうずっと泣いている空を癒そうとあなたが選ぶ花柄の傘」
これは、周南市出身の歌人、木下龍也さんの歌集